

発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 石川 富 康
 編集人 中平等 新 一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◇ 3月9日～10日 雪上技術講習会 (大日ヶ岳)

<http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>



樹氷輝く天狗岳 (八ヶ岳)

PHOTO 中平等 新一

年頭に当りて

綿密な計画で安全登山を

会長 石川 富 康

新しい年を迎え、会員の皆様におかれましては、決意も新たにされている事と存じます。

昨今は、若手を中心とした登山ブームもあって、各方面の山々も大分賑わったようであります。そんな中であって愛知岳連では諸事業を滞りなく遂行してまいりました。

特に、指導部による定期的な勉強会、また確保、救助、そして雪上技術などの講習会も熱心な受講者の下、活発に実施されてきました。

更には高体連の先生方が、高校生の育成に努力されている姿をみて感謝しております。その他、県民登山では一般参加者に多くの知識や山登りの楽しさを伝えました。

他方、ぎふ国体にあつては、成年男子ボルダが4位入賞、少年女子がボルダ、リード共に7位入賞という嬉しい成果を上げてくれました。いずれも今後に大いに期待するものであります。

であります。

また、地道に自然保護委員会や遭難防止対策委員会も頑張ってくれています。ただ、残念なことに春と冬に死亡・行方不明者を出すという遭難事故が起きました。

登山には常にリスクはつきものといわれています。いかに体力や技術、知識があっても自然の節理にはかなわないことが多々あります。やはり細心の注意を払って計画・実行していくことが肝心かと思っております。

今年の四月から、日本山岳協会も公益社団法人として生まれ変わります。いろいろと運営、事業面でも変化があると思います。

愛知岳連にあつては、九月に中高年安全登山指導者講習会(東部地区)という、大きな事業が予定されています。今後とも、会員の皆様のご協力を切に願います。

平成24年度救助技術講習会・研修会

セルフレスキューや自己脱出など
受講生・指導員一体の講習!!

平成24年度救助技術講習会・研修会が、10月20日(土)21日(日)豊山市・南山の岩場に於いて、39人が参加して実施された。

20日、9時30分から指導員の研修として、救助技術の確認等を17時まで行い、そのあと宿舎の龍溪院で、講習会の班編成や最近の事故について語り合った。

翌21日の講習会は7時30分受付、8時開会式が行われ、木田指導委員長が挨拶で今日のスケジュールと注意事項、また、講師の紹介等があった。講習に入った。

まず、内田指導員によってテーピング講習が始まる。スポーツ外傷の中で最も多い足関節捻挫と応急処置を非伸縮性接着テープを用いて行われた。

つづいて「縦走コース」「岩場基礎コース」「岩場実践コース」に分かれ、それぞれ実施場所に向かった。

縦走コースでは、午前中読山行を裏山でやり、午後はロープワーク、登山道からの転落滑落者吊り上げ、吊り降ろし、搬送方法などを行う。

では、チームレスキュー、アンカーの構築、自己脱出、懸垂下降、介助懸垂、引き上げなど女岩を主に15時まで行われた。

閉講式では、各主任講師から感想が述べられ、受講生に対し習得した技術は、今後の登山に役立ててほしいと結んで、講習会は無事終了した。

なお、参加した山岳会及び指導員は次のとおりです。豊橋山岳会、名古屋山岳会、アイシン精機、豊田山岳会、トヨタ自動車山岳部、岡崎山岳会、GSA、やまびこ山想会、千種アルパインクラブ、岩倉山岳会、愛山会

〔指導員〕木田光彦、高橋優、高木宏、石川まゆみ、河合宣男、磯村雅仁、中島義政、内田博昭、久山立、武藤浩、田邊康治、有富保之、中山秀樹、森田金明

(中平等新一)

講習会に参加して
丁寧な指導に感謝

岩倉山岳会
畑下 美保

10月21日(日)晴天に恵まれ、南山にて行われました「救助



技術講習会に参加させていただきました。

私は「未知なる山と仲間と安全と向上を求めて」山岳会に所属しています。昨年は一般縦走コースに参加しましたので、今年は岩基礎コースに参加しました。実技内容は全員でのテーピング講習に始まりました。グルグル巻くので

3年ぶりの救助講習会に想う

指導員 武藤 浩

秋晴れの穏やかな10月20日、21日絶好の日和の下、豊田南山にて救助講習会が開かれた。20日は指導員の研修で、翌日の下準備も兼ねて14名が参加。後述の「縦走」の講師役は、藪を漕いでハイク・アップ。「岩の基礎/実践」の講師役

は、受講者ともに、手応えの実際は別にして、着実にステップアップした事は間違いないだろう。

最後に行われた反省会の発言の中で、特筆すべきものとしては、「以前に習って覚えた筈の事が上手くできなかつた。本当は「未だ自分は技術を身につけていない」ことが良く解った」。「ロープやスリングの結末のバリエーションなど、知っていれば有利ではあっても、「枝葉の技術の講習会」に終らせては勿体ない。それだけでは、修羅場のような事故現場では足りない。何年やっても、誰かを救えるようにはなれないのでは?」

「自信にも繋がらないのでは?」の反省の弁。心に刻みつけておいて、自分なりに答えを返せるようになりたい。また組織としても、答えを出し、舵を切るべきタイミングに差し掛かっているように思える。今のところの個人的な見解だが、一番単純な形で良いから「システムを組んで要救助者を降ろし、引き上げる演習」を繰り返して、経験を積み重ねて行けば、見えて来るものがきっとある筈だ。私はこの講習会では、「岩の実践」の講師を務めさせて貰ったが、その限りで判断すれば、受講者の6名と講師の全員は、「システム」の構築と演習への対応に、充分とまでは言えないまでも可能だと

は、救助の段階ごとの作業の予習。とどめは、女岩で「カウンター・ライジング」が難行して、暗くなつてから壁を降りる始末に。その夜は岡崎市の古刹・龍溪院で、6名が親睦を兼ね宿泊。21日は講習会の内反捻挫の為のテーピングの鮮やかなデモと解説。その後、縦走と岩の基礎と岩の実践の三つのクラスに分かれて、真剣に課題と取り組んだ。講

◎次回理事会は
3月19日(火)です

感じた。以前を思い返しても、受講者の技術レベルは向上しているように思う。3年前までは「リードの確保からの自己脱出」がおぼつかないか、やつとの者がゴロゴロ居たものだ。だから、どんだん挑戦すれば良いと思う。また反対に、何故やらないのか？クライミングだって何だ？限界を押し上げる為には、強く願ひ、プッシュし続けるしかないのだから。その延長線上の意味で、救助講習で、しかも「システムの」(II)間違ひなくキツくて辛いだろう)に加わりたいなんて考える奇特な人は、もつともつとしごかれて良いのではないだろうか。既に遭対委員会が動き出している事でもあり、講習会がレスキューチームの養成にリンクするようになれば素晴らしい。「レベルの高い実践集団」はステイタスに成り得る筈だから、そうした一勢力の有るものに憧れ、集まってくる熱血漢(女性も)は絶対居ると思う。また更に、後に続く未来のメンバー、未来の指導員はきつと現れると信じよう。何か動き出し、変わって行く予感がした。

(千種アルパインクラブ)

第1回鈴鹿山系連絡協議会
隣接8県で遭難防止や自然保護を協議
道標の引き抜きやトイレのチリ紙問題

最近、鈴鹿山系で遭難事故や自然への荒廃が目立つようになり、滋賀県や三重県ではその対応に苦慮されており、一般登山者を含め安全登山への啓発をしようと、隣接する県岳連との話し合いをもつことになった。

11月3、4日の2日間、滋賀県東近江市・紅葉尾自治会館で8県から、遭対・自然保護の関係者ら30人が出席した。初日は、午後2時30分から滋賀岳連・伊藤克己副会長が進行役となり、国松嘉伸滋賀岳連会長が挨拶。つづいて協議に入り「各山岳連盟の鈴鹿における活動の現状と課題」「今後の取り組み」など情報や意見交換が行われた。

まず、滋賀県では登山者の増加と共に遭難する人が増えており、捜索隊の設立も考えている(道案内など)。現在は警察からの要請を受けて出動している。また、警察署と協力して安全登山のためのポスターやパンフを作成し配布している。自然保護に関しても、各山岳会が近くの山域でパトロールを年3回行っている。道標のシールを剥がしたり、引き抜くという補助金があり、観光協会経由の補助金で整備をやっている。また、一般個人登山者対象のパーソン

ナル会員にも力を入れている。三重県では、警察・消防署と共に遭難防止策を話し合っている。予防専門部では道路整備を行ったところ、道迷いがゼロになった。遭対委員に個人会員90人が登録しており、メールで連絡を取り合っている。更に、協議会では腕章を作って、登山者に安全登山を呼びかけ啓蒙を行っている。等々両県での遭難救助や安全対策への取り組みが語られた。

岐阜県は、余り鈴鹿の山に入っていない。岳連としては警察から要請があれば出動する程度であり、山岳警備活動を広報によって情報提供している。自然保護では周辺の山を自主的にパトロールしている。

愛知県としては、鈴鹿の山へは多くの人が出ており、遭難事故も起こして申し訳なく思っている。昨年、遭難防止対策委員会を立ちあげ、また、冬と春に各山域に出かけ、リーダーに集まってもらい遭対会議を開いて防止策に努めており、更には各種の講習会を行って参加者のレベルアップも計っている。他方、自然保護委員会では鈴鹿の山で植生活動や清掃を年1回実施している。

その他の県の出席者からも、



計画書の作成、登山届、トイレ、飲料水の問題について意見が交わされた。

会議は18時30分までつづけられ、その後、夕食・懇親会となつて活発な意見交換が遅くまでつづいた。

翌日、7時50分から会議が始まる。この会議を今後も継続していくことになり、名称も「鈴鹿山系連絡協議会」と決め、年1回開催して情報交換や遭難事故の実態、安全登山のピラ配り、未組織登山者への呼びかけを行っていくこととし、互いの山域の情報を共有し連携を取っていくことになった。

尚、次回は三重県で25年10月26、27日に開催することが決められた。

(参加県) 滋賀県、三重県、岐阜県、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、愛知県(中平新一副会長、高橋優副理事長、杉本三郎自然保護委員長)

Renopoint
http://www.renopoint.jp
Original Wear & Goods
オリジナルウェア・CMウェア (広告掲載)
カジュアルユニフォーム&グッズ
デザイン・企画・制作
お気軽にお問合せ下さい。
特許出願 GLASS PERCH(グラスパチ)
株式会社リノポイント 〒491-0835 愛知県一宮市あざら1-5-7
TEL:0586-58-5021 FAX:0586-58-5022 E-mail: ito@renopoint.jp

公官庁の許認可申請・権利義務・事実証明の書類作成
西山行政書士事務所
〒460-0002
名古屋市中区丸の内3丁目1523番地 大栄ビル204号室
TEL: 052-961-6506 FAX: 052-961-6507
URL: http://www.nygs-office.com/
facebook: http://www.facebook.com/nygs.office

愛知県高等学校新人体育大会登山競技

雨風にも負けずチームワークで行動

～読図や天気図など多くの難問に取り組み～

高体連の新人登山競技会が、昨年11月10～11日の2日間、朝明溪谷、釈迦ヶ岳で実施された。参加校は男子17校24チーム、女子3校5チームの132人だった。

一日目は、11時に朝明茶屋前に集合し、12時20分から開会式が行われた。後藤延光登山部長の挨拶で始まり、佐橋秀男審査委員長から注意事項や諸連絡等が述べられた。

12時50分、競技が始められ4人が一つのチームとなり、まずテントの設営、予め決められた区画にそれぞれが持参したテントを15分で設営し、ザックなどすべての装備を収納して完了となる。その後、踏査競技になり羽鳥峰までのコースで5つのポイントを地図上に記入していく。その間にテント設営審査があり、テント底のリングやランナーがすべて使用されているか、張り綱にたるみはないか等が採点される。他方、提出された計画書では指定された項目が記載されているかが審査され

る。その後、ロッジ前で踏査からゴールしたチームが順次自然観察の出題に取り組み、ミズナラ、シロモジ、アセビ、ムラサキシキブ、サルトリイバラの5種の植生を判別していき、つづいて装備の審査で装備品について審査委員の質問に答えていく。

全チームが終わった後は、別棟で気象知識、救急と食料知識、読図知識、天気図・予知のテストを一齐に受ける。

最後は炊事審査で、食料計画と一致しているか、衛生面やコンロの安定、調理に工夫がされているか、などがポイントとなり、1日目は18時までのハードな行程だった。

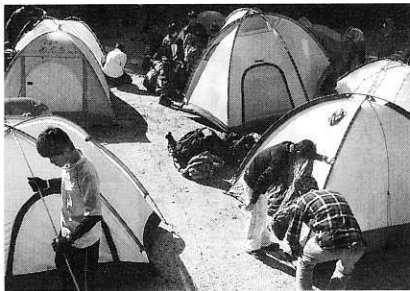
夕食後は、ミーティングがありテストや計画書が返却され、21時就寝。

二日目、朝食を済ますと5時40分からザックの計量が行われる。男子(4人)は55kgとkg、女子(4人)は45kgと55kgと決められており、オーバーするチーム、不足するチームはその場で重量の調整に大奮闘。

計量を終えると順次水無分岐へと向かった。6時40分スタート開始。1分間隔で釈迦ヶ岳、猫岳、羽鳥峰へと出発して行く。その間に3カ所で体力審査と技術審査があり、分岐点では6カ所で監視員が立ち合っている。

曇りがちの空も9時頃から雨が降り出し、風もあつて寒さが増した。選手たちは濡れながらも懸命に歩くが、中には故障者のザックを背負う羽目になるチームもあった。

当初、羽鳥峰から猫岳経由で下山するはずが、降雨で猫谷の状態悪化で峠からの下山に変更された。(途中、1チームが道を間違え下山)縦走のタイムリミットは5時間だが、ほとんどのチームはクリアし12時迄に下山すると、ゴール



テントの設営をする

地点でザックの重量審査を受ける。

他方、別棟では行動記録の採点、得点集計が行われ、成績の結果がまとめられた。

13時、閉会式は雨のため屋内で行われ、審査委員長から講評と成績発表があり、男子は旭丘高校、女子は半田高校Aが栄ある優勝に輝いた。つづいて岩狭瀬大会委員長が「以前は登山は汚いと敬遠されがちだったが、こうして沢山の人に参加してもらい嬉しく思います。これを機に登山を好きになってもらいたい」と挨拶。

最後に岳連を代表して中平等新一副会長は「最近は一歩一歩とした登山ブームです。若い皆さんがこの大会を通じて体力、技術などを磨いておられることに、大変心強く嬉しく思います。岳連ではいろいろ勉強する場を設けていますので、ぜひ参加してください」と述べ、行動記録や成績表が配布され、記念撮影に興じながら閉会した。

(中平等新一)

主な成績は次のとおり

(男子) ①旭丘 ②菊里 ③半田

A ④一宮工業 A ⑤向陽 A ⑥

向陽 B ⑦西尾、明和

(女子) ①半田 A ②旭丘

CLIMBING PARK 東三河初のクライミング施設



http://climbing-park.com

☎0532-26-3737

住所: 愛知県豊橋市関屋町138番地



モンタニア

住所 愛知県豊橋市荳町5番地 ☎0532-55-0125 http://www.montania.jp

名古屋駅前の山用品専門店

駅前アルスス

〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目11-27

TEL 052-565-1417

ぎふ清流国体に出場して

チーム戦の楽しさ 素晴らしさを知る

少年女子監督

大山 史洋

平成24年9月29日から10月2日までの4日間。僕は少年女子の監督として、ぎふ清流国体に参加しました。選手としては静岡国体から山口国体まで参加してきましたが、監督としては初参加になります。選手は桑岡、大場とは、彼女たちがクライミングを始めからの付き合いで、いつか三人で国体に参加したいと話していました。その国体に参加できたことは感慨深いものがありました。

東海ブロック予選では、チーム戦の楽しさ素晴らしさを改めて教えられました。そして、クライミングを通して成長したふたりを感じる大会になったとおもいます。国体出場が決まったあの瞬間、僕は忘れる事ができないほどの感動を覚えました。

国体本戦は全国の強豪の中、ポルター、リード共に7位入賞することが出来ました。4月の愛知予選から良く頑張ったと思います。来年は、僕も選手として二

人と東京国体に参加出来るよう努力したいと強くおもいます。

七位入賞も悔しい…

少年女子 大場 美和

今回、国体の成績は七位。すごいと言ってほめてくれる人もいました。でも、私の中では納得がいかず、とても悔しかったです。

国体は、他の大会とちがいで、二人一組で行われます。自分の失敗がチームの失敗になる。分かっているけれど、そのプレッシャーは大きく、そして失敗してしまつたときの罪悪感と後悔もまた、大きいものでした。国体は、私がクライミングを始めて間もないころからずっと心にありました。



入賞し喜びの少年女子の選手

来年も出場して 頑張りたい

少年女子 桑岡 真凜

クライミングを始めて、七年になります。始めたときは、自分が国体に出るなんて考えてもいませんでした。でも初めて「国体」というものに出て、本当に貴重な体験ができたと思います。

今までクライミングを続けてきて、いろんな大会に出てきました。クライミングは個人戦で、いつも自分がどこまでいけるかが勝負でした。でも、国体は他の大会とは違う、

「チーム戦」で、相方がいて、監督がいて、初めてひとつのチームになるということを、今回身をもって経験できました。それがとても印象に残っています。

東海ブロック予選で、私は自分の実力を出し切れませんでした。でも、相手の頑張りでなんとか勝ち上がったことができたときは、とても嬉しかったです。その時の感動が忘れられません。

本戦では、東海ブロックでの経験を活かし、精一杯の力を出し切ることができたと思います。

今後は、まだまだ上に行きたいと思うので、チームでもっと上を目指し、来年も出ることができるよう頑張りたいです。

気象予報士・猪熊氏を迎え 「遭難を考える」講演会

去る12月7日(金)県スポーツ会館において、「防げ山岳気象遭難」と題し、講師に気象予報士・猪熊隆之氏を迎え、遭難を考える講演会を開催、100余名が聴講し、「予想天気図から荒天を予想」「過去における気象遭難は同じ気圧配置で発生」などについて学んだ。

うなぎ錦三丁目 い ば しょう

いばしょう

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号
TEL <052> 951-1166 番
営業時間 午前 11:00~午後 2:30
午後 4:00~午後 8:00
定休日 日曜日・第二・第三月曜日

安心して選べる三河地区
のプロショップ

穂高

JR刈谷駅前
〒448 刈谷市桜町1-13
TEL0566(23)8611
定休日/火曜日
営業時間/10:00~20:00



登山用品豊富!

平成24年度 冬山入山状況

H24.12.20現在

▲穂高方面

(No.)	(所属団体名)	(登山期間)	(登山ルート)	(リーダー)	(人数)
1	春日井山岳会	12/29～1/1	涸沢西尾根～涸沢岳～奥穂～涸沢西尾根	佐原 晴人	3名
2	G S A	1/3～1/6	涸沢西尾根～涸沢岳～涸沢西尾根	石川 まゆみ	5名
3	名古屋山岳会	12/29～1/3	七倉～北鎌尾根～槍ヶ岳～新穂高	中川 邦仁	4名
4	〃	12/29～1/1	釜トンネル～西尾根～霞沢岳～南尾根～沢渡	吉村 賢	7名
5	チーム猫屋敷	12/28～12/30	錫杖岳 (3ルンゼ)	山田 利行	2名
6	名古屋山岳会	12/30～1/3	明神岳 東稜	坂口 弘記	3名

▲後立山方面

1	トヨタ自動車山岳部	12/28～1/1	八方～唐松岳～五竜岳～遠見尾根	齊藤 健一郎	4名
2	〃	12/28～12/30	八方尾根～唐松岳～八方尾根	井出 敦夫	5名
3	豊田山岳会 A 隊	12/28～1/1	梅池～白馬大池～小蓮華山～白馬岳(往復)	久山 立	6名
4	豊川山岳会	12/29～12/31	常念岳 東尾根 往復	白井 良武	8名

▲八ヶ岳方面

1	アイシン精機株山岳部	12/28～12/30	渋ノ湯～硫黄岳	富田 裕之	4名
2	やまびこ山想会	1/4～1/6	渋ノ湯～黒百合～天狗岳	宇都宮 俊了	6名
3	イノアックコーポレーション	12/29～12/30	渋辰野館～天狗岳～渋辰野館	大竹 利之	2名
4	チーム猫屋敷	12/29～1/6	赤岳～横岳～硫黄岳 阿弥陀北稜	伊藤 聡	9名
5	〃	12/29～12/31	赤岳 硫黄岳	森山 重則	5名
6	デンソー山岳部	12/28～12/30	硫黄岳～天狗岳	山田 明	9名
7	〃	12/30～1/1	阿弥陀岳～赤岳	亀山 誠	4名
8	岡崎山岳会	12/29～12/30	権現岳北稜(天如山～権現岳～赤岳～牛首山)	中島 義政	3名

▲中央アルプス方面

1	愛知山岳会	12/29～1/3	空木岳～南駒ヶ岳	近藤 正孝	3名
---	-------	-----------	----------	-------	----

▲南アルプス方面

1	豊橋山岳会	12/28～12/31	甲斐駒ヶ岳～仙丈岳	中山 秀樹	2名
2	〃	12/29～12/31	北沢峠～甲斐駒ヶ岳	久保田 敏康	3名
3	〃	1/3～1/6	大川入山～恵那山	小松 義直	7名
4	〃	1/4～1/5	恵那山	久保田 敏康	2名

▲剱岳方面

1	春日井山岳会	12/29～1/3	早月尾根～早月小屋往復～剱岳	豊田 豊美	2名
---	--------	-----------	----------------	-------	----

▲その他方面

1	嶺山岳会	12/30～1/1	いとしろ～神鳩小屋～三ノ峰	加藤 和美	2名
2	名古屋山岳会	12/29～12/30	乗鞍岳 (山スキー)	馬場 敏子	2名
3	豊田山岳会 B 隊	12/29～1/4	屋久島・霧島連山(宮之浦岳・高千穂峰・開聞岳)	山本 幸久	5名

※平成24年度の愛知岳連加盟団体の冬山入山状況は、27チーム114人でした。



観光庁長官登録旅行業第490号(社)日本旅行業協会正会員

ALPINE ツア サービス

海外トレッキング/世界の山旅 専門旅行会社

まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい

個人&グループでのご利用お待ち申し上げます

名古屋営業所 TEL: 052-581-3211

〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-6 第2千福ビル8階

FAX: 052-561-8338 E-mail: nagoya@alpine-tour.com

ホームページ <http://www.alpine-tour.com>

名古屋・伏見 **長者町** の山用品専門店



ステラアルピーナ

(旧ジャッツバーム)

名古屋市中区錦二丁目5-31 長者町相互ビル2F ☎052-231-0739

営業時間/11:00～8:30pm(日曜日は7:00pm迄)